

HONTAN

図書館ボランティア「本探」が
同の図書館情報をお知らせします 第9号

2010年 6月号



ON TAPPIECES

本を読んでいると、ときどき「この人変。」とか「こんな人絶対いないな。」と思うことありませんか？といふ訳で、今回は「この人変？」と思った登場人物」ということで、HONTANXバーに質問しました。

そゆうが ショサン・ストラウド 933.7/S
『パーティミアス』
「パーティミアス」
彼を呼びだした魔術師(人間)より変？と情？に益れる妖怪(=悪魔)

卯月が 榊庭一樹 913.6/S
『砂糖菓子の弾丸は撃ち抜けない』
「友彦(兄)」
最初読んだとき猛烈に変人だ!!と思いました。その後妹のために普通の人間に戻った部分が好き。

とかが 奥田英朗 913.6/O
『イン・ザ・プール』
「伊良部 一郎」
こいつ本当に精神科医？これ本当に治療？誰もがそう思っている最強の変人です。

花蓮が 伊坂幸太郎 913.6/I
『417』
「陣内」
意味不明な行動を繰り返し、周囲を巻き込む。でもお世が惜めない家裁調直官。

いとまが 森見登美彦 913.6/M
『夜は短し歩けよ乙女』
「先輩」
黒髪の乙女に偶然出会うための彼を追いかける偏屈で妄想癖のある行動的な痴情男。

ma☆buが 夏目漱石 913.6/N
『坊っちゃん』
「教頭改め赤シャツ」
現代にもいそうな陰湿な男。サ、嫌われ役。

板が 瀬尾まいこ 913.6/S
『強運の持ち主』
「ルーズ吉田」
とにかく無責任がたい師。これを讀んだら、きっとたい師を疑うて間違いない。

N.川が 森博嗣 913.6/M
『ときどきフェノメノン』
「窪居 佳那」
日々論理的思考で妄想し“ときどき”を直う院生。愛すべき超理系主人公。

なかが 津村 記久子 913.6/T
『ミュージック・ガラス・ユー!!』
「アザミ」
直線くで奇怪な行動を繰り返すアザミ。阪神阪の簡易装置に赤髪という見た目に反した物地者。

ははちゃん 小野 不由美 913.6/O-1
『屍鬼上巻』
「室井 静信」
住職であり、小説家である室井静信。一見温厚でありながら、矛盾だらけの男。

舞が 萩原 浩 913.6/O
『神様からひと言』
「涼平」
父男、涼平のサクセスストーリー。社員からお客様から、登場人物すべて曲者。

珠が 京極 夏彦 913.6/K
『京極堂』シリーズ
「榎木津礼二郎」
主人公ではないけれど圧倒的存在感。そして全てを完全粉砕する男。

この本探力 NO.3 芥川賞

前回のコラムで紹介した「直木賞」と同じくらい有名なのが「芥川賞」。その名の通り、大正時代を代表する小説家の一人、芥川龍之介の業績を記念して設けられた賞です。対象作品は新人作家による発表済みの短編・中編作品。受賞作は『文藝春秋』に掲載されます。「芥川賞」は純文学の賞、「直木賞」は大衆文学の賞と分けられてはいるものの、その境界が曖昧になることもしばしば。

現在、芥川賞の最年少受賞は綿谷りさ(当時19歳1ヶ月)の『蹴りたい背中』。今後更に若い世代が受賞することもあるかもしれませんね。

＜とかが＞
綿谷りさ『蹴りたい背中』(3F-般図書 913.6/W)

HONTAN 雑誌の書評を紹介

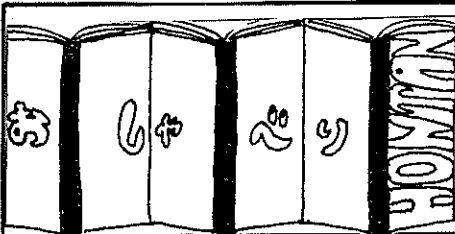
Pick up MAGAZINES

6月号(No.194号)140p
「沖方丁先生インタビュー」
先日発表された本屋大賞の受賞作

「天地明察」の作者・沖方丁氏が、受賞記念のロングインタビューに登場。デビュー当時、「主題・世界・人物・物語・文体」の5つを制覇できた自ら自身を作家と称するという誓いを立てた沖方氏。13年の月日が流れ、ようやく「作家」を名乗り始めたそうです。初「作家」作品、このロングインタビューをお供にいかがでしょうか？

沖方丁『天地明察』(3F-般図書) 913.6/U

＜きゆう＞



<とおか> 考えさせられる部分があるのでは私もあり作品の一つの特徴だと思います。私は『図書館戦争』と『インツリーの国』を読んだときにそう感じたな。特に『インツリーの国』は難聴が障害についてのこと、そういう人たちの生活について知れて、物語としても面白くて凄い作品だと思います。『図書館戦争』に登場する小説だからといって、決しておまけでもないところが良いなあ、と。

<卯月> 私は『図書館戦争』の堂上北都のキャラクターが好きなのは。だって何となく同じだから読んで笑えるんだね。<花蓮> キャラは私も堂上北都がダントツだね。理由は、堂上が素敵控るから(笑)

今回のおしゃべりHONTANは、本屋大賞にも入賞した作家『有川浩』を取り上げます。卯月、花蓮、とおか、珠、板の5人が熱く語ります。

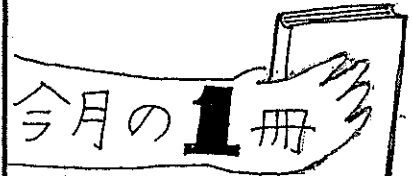
<珠> 私と有川さん作品大好きです。最初に読んだのは『盗の街』ですね。一番好きなのは『空の中』です。理由は有川ヒロインの中にも光緒さんが一番好きだから。強い女性が好きなので有川作品は宝庫だと思います。ラブコメ部分は読んでいるといふ類が後もので学校ではなかなか読めませんでした。

<板> 私と『図書館戦争』で言論規制について考えさせられました。いつ未来にさうなってもおかしな世の中だし、だからおまけは図書館もアクションじゃないような感覚に陥ってはいけません。『阪急電車』の日常的なのに奇跡的な人となりのおまけが暖かくて好きです。という有川作品のエンディングが暖かい。どの作品も後味悪いことってないですね。

<卯月> 私が一番好きなのは、『図書館戦争』です。漫画から入った人間ですが、漫画に負けないラブロマンスがハマリ、有川ファンになりました。ラブ(ラブバブルのこと)とハッピーエンドストーリーが大好きなので、有川さんはその期待を裏切らないところが好き。<花蓮> 私は『図書館戦争』の原作から入りました。おまけに『図書館革命』(最終巻)を1日で読んだといふ武勇伝があります。ラブコメでも、それ以外の作品でも、有川さんの作品には必ず「考えさせる部分」が入っているという魅力があると思います。『図書館戦争』を読むと、言論規制について考えさせられる部分がかんばります。また、とにかくキャラ設定が細かい。キャラが立っていて生き生きしているのどい好きで入ってしまいます。

皆さんはどのキャラクターが好きですか? ところで、有川作品の登場人物にはどこか親近感...というのでは? 「あー...こういう人実際に居るんだ」という感じがして、今までの本の世界=非現実世界という概念を壊されました。有川作品に考えさせられる部分があるといふのは同意です。アクションとかラブコメとかあってさうって読むのですが、そのさうの中に難しい現実問題が組み込まれていたりして読後にふと何の知識もないのに考え込んでしまったりとか。

<卯月> 『クワラの彼』でした。『クワラの彼』(『空の中』『海の底』番外編含む)の方がミリタリー要素少なめだから入りやすいのもあるかもしれない。おまけに『海の底』の子どもを使え描かれた集団心理が面白くも面白かった。最後に、カットはもう全部好きです!(笑) 小牧さんが素敵だったのが、越江に妬いた私は心が狭い。(本当です。) 女性ではダントツで光緒さんです。→『空の中』は現在発注中。

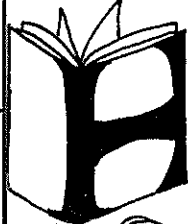


恩田陸著
「麦の海に沈む果実」
9/3.6/0

舞台は湿原に囲まれた学校。三月に入り三月にしか出られない三月の国。支配しているのは日によって男と女が替わる校長先生。そんなところに二月最後の日に転校してきた理瀬。二月に来た生徒は学校を破壊に導くという伝説に脅かされる理瀬。知らないはずなのにどこか見覚えがあるのは何故だろうか。そんな理瀬の周りで起きる殺人事件。黒い赤茶と消える生徒たち。麗子とエカはどこへ消えた? 全てが完璧なものになにかがおかしい。その違和感を受け入れても受け入れなくても、待っているのは、本物の墓場。これは長い夢なのだろうか、それとも自分自身が演じているのだろうか。「大丈夫、ちゃんと幕は一人で引いてみせるから」ファンタジーともミステリーともとれる一冊。挿絵のせいかはたまた表現のせいか、冷たく寒い本です。読み終わった後にもうひとつの理瀬の物語「黄昏の百合の骨」もいかがでしょうか? <なのか>

よくわかる HONTANの 伊藤 館長 図鑑 第2巻 総著者: 卯月

伊藤館長の好きな作家・読む作家 ~
<アメリカ文学> アン・タイラー, ジョン・アーヴィング
<日本人作家> 伊坂幸太郎, 井上靖, 七川優三郎, 北村薫, 関川夏央, 藤沢周平, 丸谷オー, 向田邦子, 村上春樹, 山本真彦など。特に、向田邦子は、「声に出したい文章の書き手」です。



今回はおしゃべりHONTANの補佐を、『有川浩』の男性読者はどのくらいいるのか? という会話が出たのですが、職員Bさんによると、北星は9:1の割合だそうです。(もちろん女子が9)北星男子に一番借りられている作家は、東野圭吾や伊坂幸太郎だそうです。やはり東野圭吾や伊坂幸太郎は人気が高いですね。

先月から休憩室の掲示板に新たにHONTAN特製の「リレーポスター」が掲げられはじめました。このリレーポスターとは、毎月HONTANメンバーの一人が自分が紹介したいことを自由に決め、次回ポスター担当者も自由に決めてメンバー内で回すコーナーです。初回と今回は作家特集でしたが、今回はどんなポスターに...? 乞うご期待! <卯月>



HONTANラウンジが上位にも入っています。でも、何かの機会に他の作家にも出会ってみたい。けっして死見状があるかも。私も探してみようと思時。 <卯月>